

[掲載紙] 読売新聞「先読み深読み」

[掲載日] 2012年9月6日

[テーマ] 女性パワー生かす雇用

今夏のロンドンオリンピックで、日本は史上最多の38個のメダルを獲得した。日本人選手が幅広い競技で活躍した成果であり、特に女性選手のパワーや団体競技での選手の絆の強さが印象に残った。

女性のパワーと言えば、「かかあ天下」と呼ばれる群馬の土地柄を連想する。県内の雇用統計をみると、女性の労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口の割合）は全国平均よりもやや高いなど、働き者の女性の姿が窺われる（2010年労働力率、群馬県50.0%、全国48.5%）。とはいえ、県内男性の労働力率（同、73.5%）と比べると、まだかなり低い水準に止まっており、しかも近年低下傾向にある。

今後も人口減少と高齢化が続くと見込まれる中、県内経済の成長力を高めるためにも、女性の雇用機会を一層増やす取り組みが重要だ。女性の雇用促進については、各種助成や職業訓練給付等公的負担を伴う対応が注目されるが、女性にとって働きやすい事業分野を整備・拡充することも必要だろう。

女性の雇用状況をみると、業種によってかなり幅がある。就業者に占める女性の割合をみると、製造業や建設業では低い一方、医療・福祉や宿泊業・飲食サービス業、金融・保険業などではかなり高い。このうち医療・福祉の事業は、成長戦略という観点で最近注目されている分野であり、今後の展開次第では、女性雇用の拡大につながる事が期待される。

業 種	男女比 (%)	
	男性	女性
全産業	57.6	42.4
製造業	70.9	29.1
建設業	81.7	18.3
医療・福祉	26.1	73.9
宿泊・飲食サービス	38.2	61.7
金融・保険	48.0	52.0

※【出所】群馬県・平成21年経済センサス基礎調査

ただ、一口に医療・福祉分野と言っても、病院・診療所や看護はもとより、老人ホーム等老人福祉や児童福祉、訪問介護やデイケア・デイサービスなど、様々な事業形態・サービスがある。県内の利用ニーズに十分マッチした事業の展開と働きやすい雇用環境の整備が図られるよう、官民挙げての取り組みが必要だろう。

なお、日本銀行前橋支店では、職員の約半分が女性である。群馬の土地柄だろうか、職場では皆、明るくパワフルに活躍している。

〔 日本銀行前橋支店長
相良 雅幸 〕